

入学定員 8名(収容定員16名)

学位 修士(看護学)

標準修業年限 2年(最大在学年数4年)

博士前期課程では、建学の精神に則り、
 生命の尊厳への深い理解と実践科学としての看護の本質を探究する姿勢を育み、
 卓越した看護実践能力と研究能力の基盤を備えた看護職
 または、高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

入学受け入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

博士前期課程では、教育研究上の目的に基づき、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求める。

1. 看護学の各専門領域の基礎的な技能を有する者
2. 高度専門職業人・教育者として、社会や看護学の発展に貢献する意欲がある者
3. 論理的かつ柔軟に看護について探求できる者
4. 生命への尊厳、倫理的感受性を持つ者

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程は、看護ケア開発に必要な研究の基礎的能力、教育・実践のコミュニティを育成する能力を有する教育研究者及び地域で暮らす人々を支える高度専門職業人を育成することができる教育課程を編成する。以下に、具体的な教育課程の編成方針を示す。

1. 高度な看護実践家を育成する「専門看護師コース」と専門分野の教育・研究者並びに実践と研究の架け橋となる人材を育成する「研究コース」を開設する。「専門看護師コース」には、高度実践看護領域として高齢者看護分野、慢性看護分野、小児看護分野を設ける。「研究コース」には、コミュニティ・ケアシステム領域として看護ケア・教育学分野、看護情報学分野、高齢者看護学分野、地域看護学分野、医療看護領域として看護実践デザイン・マネジメント分野、成人看護学分野、精神看護学分野、成育看護領域として小児看護学分野、母性看護学分野を設ける。
2. カリキュラムは、高度な看護実践力や対象に応じた高い教育力、研究に必要となる基本的能力を修得する「共通科目」、各分野における専門性を高める講義科目と実習科目からなる「専門科目」、高度看護実践能力の獲得や研究課題を焦点化し研究を展開する能力を高める演習科目からなる「演習・研究科目」で編成する。
3. 看護の対象者や社会のニーズの変化に応じた高度な看護実践が提供できる能力、変化に対応した看護ケアが開発できる能力、効果的なケアシステムが開発できる能力、マネジメントに携わることができる能力の修得を目指す科目を配置する。
4. 地域で暮らす人々の健やかな生活を支えるための看護ケアを開発するために、実践の中から地域が求める看護課題を探求し、エビデンスを活用する能力および成果を発信する能力を養う。
5. 看護実践の知の創出、発展のための基礎的能力として、教育・実践のコミュニティを育成することができる能力を養う。

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程の学位授与の方針は、教育研究上の目的に基づき、次のような能力を身につけ、修了に必要な単位を修得し、修士論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の審査及び試験に合格したものに「修士(看護学)」の学位を授与する。

1. 研究の基本的な能力を修得している。
2. 対象に応じた高い教育能力を修得している。
3. 専攻分野における高度な看護実践能力を修得している。
4. 高度専門職業人としての倫理観と姿勢を身につけている。
5. コミュニティヘルスケアを基盤として、人々の健やかな生活を支える能力を修得している。